

和泉事務所

消防庁即応対処部隊の見学会を行う



と記念撮影を行ったのち、拡張すると約70平方メートルの室内空間ができる「高能指揮支援車」のなかで、即応対処部隊を紹介するビデオを見ました。参加者からは「レスキュー隊とどうちがう



隊から選抜されています。年齢制限は四十五歳、全国唯一の組織なので要請されればどこへでも行きます」と答えがあり、参加者一同感心しきりでした。このあと即応対処部隊に配備されている各種の特殊車輛や船尾のプロペラで前進するエアポート、高性能カメラを備えた各種ドローンなどを見てまわり説明を受けました。最後にドローンによる地上調査の演習が実演され、終わって隊員全員が整列し



和泉事務所は十一月三日、二〇二〇年に設置された東京消防庁即応対処部隊の見学会を行いました。当日は約四十名の人が午前10時30分に、部隊の駐在地、区内高砂一丁目一番地に集まり、まず隊員全員「各消防署のレスキュー

でボーリングを行うものであり、測量調査はドローンを使って来年一月まで行う予定とのことでした。これらの調査を終えてから都

都は「土手の天端は管理用道路であり、本来は公衆用道路ではない。河川の断面等から流下能力をみながらどのように遊歩道整備が可能か、管理は葛飾区になるので、区とよく協議をしたい、とのべました。



大場川の地質・測量調査開始

和泉事務所と地元党支部が都にヒアリング



区内水元地域で埼玉県との境を流れる一級河川・大場川の地質調査と測量調査がはじまりました。これは和泉なおみ都議が二〇一九年に大場川の水辺環境の整備を求める「文書質問を行い、これに対して都が自然環境に触れあえる河川として整備します」と回答。この回答が実現する方向へ都が具体的に動き出したことを意味します。

十月二〇日、和泉事務所と水元地域の党支部が、都庁ですすめられている調査と今後の計画についてヒアリングを行いました。これによると地質調査は、地震の際、液状化でどの程度堤防が沈下するのかを調べるために七地点

地元党支部からは、土手を散歩していても自動車、自転車、歩道がない、自動車、自転車、歩行者がそれぞれ分離できるようにしてほしい、と要望が出されました。

十月二〇日、和泉事務所と水元地域の党支部が、都庁ですすめられている調査と今後の計画についてヒアリングを行いました。これによると地質調査は、地震の際、液状化でどの程度堤防が沈下するのかを調べるために七地点



日本共産党 都議会議員 **和泉なおみ** の **さわやかレポート**
 NO.74 2022.11
 和泉なおみ事務所 葛飾区東立石 3-25-8
 TEL 5671-0850 / FAX 5671-0851